

令和6年1月9日 3学期始業式 校長講話

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。みなさん、年末年始をどのように過ごしましたか。受験を控えている3年生にとっては、クリスマスも正月も関係なかったという感じでしょうか。3年生は、卒業までの高校生活も残すところあと50日ばかりとなりました。2学期終業式でもお話ししましたが、有終の美を飾ることができるように残された高校生活をきちんと送ってください。2年生、1年生のみなさんは、それぞれ3年生0学期、2年生0学期がスタートしました。いつまでも正月気分のままでは困ります。気持ちを切り替え、学年の総まとめをするとともに、うまく新年度へつなげてください。

江津高校グランドデザイン「4つのC」のうち、1学期終業式では「Challenge(挑戦)」について、2学期始業式では「Communication(対話)」について、2学期終業式では「Critical Thinking(批判的思考)」について話をしました。残るは「Collaboration(協働)」です。コラボレーションという言葉が日本に定着したのは1990年代であると言われます。「夢のコラボ」という言い方もしますが、異なる分野のアーティストが競作したり、ジャンルを超えて共演したりと、最初は主にアートの分野で使われていました。やがて経営や情報(IT)の分野にもコラボレーションという概念が浸透するようになっていきました。ビジネスの世界では複数の企業が共同でプロジェクトを進めたり商品開発を行ったり、研究や学術分野では複数の研究者が協力して研究を行ったり、という例が挙げられます。

教育の現場でも、グループワークやディスカッションなどを通じて、異なる視点や知識を共有することで、より深い理解を得ることができることから、いわゆる「協働的な学び」の重要性が指摘されています。江津高校では、地域との連携による協働的な学びの機会も多いです。学校外の様々な大人のみなさんからの異なる視点や様々な価値観に触れることで、自分自身のものの見方や考え方の幅が広がり、奥行きが深くなったと感じている人は多いのではないですか。

「三人寄れば文殊の知恵」ということわざがあります。「文殊」は、仏教で知恵をつかさどる菩薩で、「文殊の知恵」とまでいうのは誇張表現ですが、1人や2人ではなかなかうまくいかない場合でも、3人目の知恵や視点が加わることによって互いに刺激し合い、当初は思いもよらなかった発想が浮かんで、問題の解決につながるものがまあります。1人では発想の広がりが限られてしまいます。2人では意見が合わずケンカ別れる可能性があります。3人であれば、意見が対立した場合にもうまくバランスを取ることができます。3人集まれば社会ができるとも言われます。つまり3人という単位は合意形成を図るための最小単位の「社会」となるのです。3人集まることで発想の質的転換がなされることがあるのは確かでしょう。コラボレーションが成功するためには個人の能力や組織の柔軟さはもちろん必要ですが、メンバー同士の自発的で自由なコミュニケーションが特に重要です。

さあ、これで「4つのC」をしっかり覚えてくれましたね。この4つの力は、これからの時代を生きるみなさんにとって、必要不可欠な力です。「4つのC」は、教科学習、探究活動、部活動、学校行事など江津高校における様々な学びの場で身につけることができます。「4つのC」を意識して、自らの成長のために挑戦を続けてください。